

## 更なる「二刀流」を目指して

株式会社ジルコ

代表取締役社長 河津 宏志



上の表題は、ここ数年、プロ野球（日本リーグ及び米国・カナダのメジャーリーグ）で大活躍している大谷翔平選手の「二刀流」の話ではありません。

会社での仕事と、仕事以外で自分が過ごす家庭生活での充実の両方を、いずれも素晴らしい成績（対応）で、「二刀流」を達成していくためには、どう取り組んでいけばよいのかということについて、私見を述べたいと思います。ワークライフバランス（仕事と、仕事以外の両立）では足りません。

経営者がそんな考え方では甘いのではと言われる方もいるかもしれません。事実私自身も若い頃や、つい最近までは、「家庭も大切にしなければならぬが、仕事は自分がやりたい事でもありしっかり取り組みたい」として、仕事と私生活の両立を目指していたつもりでしたが、結局仕事を最優先して家族との時間をないがしろにする行動を取って来たのではと、最近の家族との会話を聞きながら、強く反省している今日この頃です。

それでは、冒頭の「二刀流」を実現させていくために、各人や企業経営者は一体どのような心構えや、対応、行動が必要なのでしょう。

つい最近、「1%の超一流が実践している「仕事のシン哲学」」（宮本剛獅（元プロテニスプレイヤー、現在（株）人材コンサルティング&カンパニーのCEO 兼代表取締役：（株）クロスメディア・パブリケーション発行（2022.10.11））と言う本を読みましたが、その冒頭に、

「現代ビジネスマンの新たな働き方を考えるとき、世界基準の仕事をしているトップクラスのビジネスマンの生き方、考え方がヒントになる。その共通点は、①「楽しむ」（自分の時間や人生を楽しむことを目指して、毎日の仕事と向き合っている。）、②「挑む」（失敗を恐れず、未開拓の市場や手付かずの分野に果敢にチャレンジしている。）、③「育む」（自分や家族、会社、社会、世界など、世の中をいい状況、いい環境にすることをイメージして仕事に取り組んでいる。）であり、これらを可能としているのは、徹底した『合理性』と『発想の転換』。」とありました。

そして具体的には、この本の中で、「交渉術」「仕事の流儀」「部下マネジメント術」「発想術」「生活習慣術」と区分して、全体で35項目について、二流、一流、超一流の3つのクラスでの考え方、行動の仕方が書かれています。

これらの中から、私が考える、更なる「二刀流」を目指す上で参考となるものを3つ抜粋して紹介します。

1つ目は、「自己紹介」についてです。「①二流は過去を伝える、②一流は今を伝える。③超一流は未来を伝える。」として、「過去や今を伝えても何も始まらない。自分の未来に相手を巻き込む位の話をするのが大切」と言っています。確かに、「二刀流」を実現するためには、これからどう取り組んでいくかを強く発信していく必要があります。

2つ目は、「失敗への向き合い方」についてです。「①二流は、同じ失敗を繰り返す。②一流は、失敗しないようにする。③超一流は、数多くの初失敗をする。」と言っています。「失敗を味方につける覚悟があり、失敗を「必要悪」と考えれば、落ち込む必要はない。」とも言っています。失敗を恐れて、失敗しないように時間ばかり要しているような仕事の進め方は、非効率であり、チャレンジ精神が足りません。私も数多くの失敗をしてきました。それらが今の自分を支えているように思っています。

3つ目は、「幸せとは？」についてです。「①二流は、自分を大事にする。②一流は、同僚や後輩を大事にする。③超一流は、家族を大事にする。」として、「幸せの原点は家族にあるという考え方を超一流は持つ。経営者も社員を大切にすると同時に、家族もハッピーにするのが大事。「自分が大事」では幸福感は生まれない。」と言っています。

社員の方々が、自分の私生活が生き生きしていれば、結果的に今従事している仕事に対しても効率よく、合理的に取り組むことになり、所属する企業にとっても、好影響が出てくるはずです。また、これから社会に出てくる学生にも、就職したい企業として大きくクローズアップされると思います。

また別の本には、「これから25年後位には、スマホやパソコンの普及率が0になる。」とありました。私は自分の目を疑いましたが、よく読むと、その時代になると、メガネタイプや、目のレンズにフィルムを埋め込む形式の情報ツールが主流になり、スマホ、パソコンは消えていくとのことでした。

このようなスピードで変化する科学技術の進化の中で、我々農業土木事業協会関係企業は、どのような変化を遂げ、どの方向に向かうのでしょうか。いや、流れに流されるのではなく、企業も個人も、更なる「二刀流」を目指して、これまで以上に、自分達で方向づけていく必要があると強く感じています。